

「自分らしく」生きるまちをつくるアンケート結果概要

1 調査概要

(1) 調査目的

「男らしく」「女らしく」ではなく「自分らしく」生きることができるまちづくりをコンセプトとし、ジェンダーバイアス（男女の役割に対する固定観念や、それに基づく差別・偏見など）等に関するアンケートを実施することで、男女共同参画の推進に係る町の課題を把握する。また、アンケート結果をもとに、町民が参加しやすい男女共同参画事業を展開していく。

(2) 対象者 新ひだか町民および新ひだか町で働く18歳以上の方

(3) 調査方法・テーマ・期間

「仕事」「家庭」「地域」の3つのテーマに分け、Google フォームおよび役場庁舎に設置のアンケート用紙にて回答受付。

テーマ	アンケート期間
第1回 仕事のこと	令和4年10月25日～令和4年11月21日
第2回 家庭のこと	令和4年11月25日～令和4年12月21日
第3回 地域のこと	令和4年12月23日～令和5年1月23日

(4) 回答状況

テーマ	回答方法および人数	
	Google フォーム	アンケート用紙
仕事のこと	140人	12人
家庭のこと	134人	4人
地域のこと	135人	3人
合計	428人	

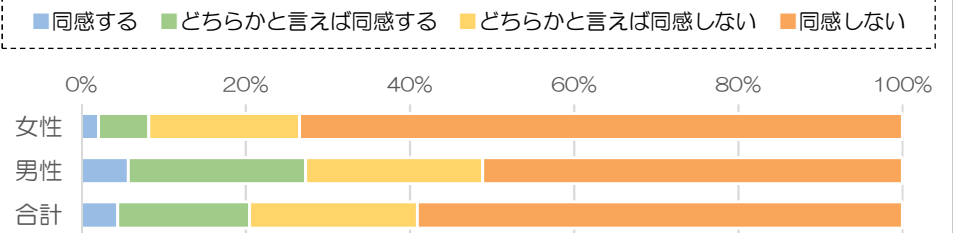
2 主な意見・傾向

- ① 「男女平等であるべき」「性別は関係ない」という声が多い
- ② 性別による役割・待遇の差を感じている
- ③ 性別によって役割分担の偏りはあるが、満足度は高い
- ④ 役割分担の偏りよりも、男女共に時間的な余裕がないことが問題

① 「男性は仕事、女性は家庭」といった性別による役割分担について、全体の約80%、女性のみで見ると90%以上の方が「同感しない」または「どちらかといえば同感しない」と回答しています（第2回「家庭のこと」より）。

自由回答についても「性別ではなく個人の適正で役割を決めて良い」「家庭によってさまざまな形があって良い」「仕事も家事・育児も対等にすべき」という声が多く寄せられていました。

Q 「男性は仕事、女性は家庭」

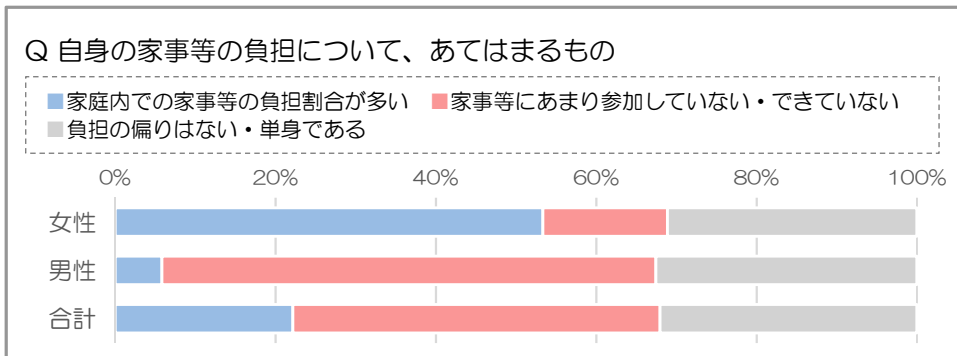


② 第1回「仕事のこと」では、「性別の違いによって昇進・昇給等の待遇の差を感じたことがある」と回答した人が24人、「性別の違いによって任される仕事の内容・責任の重さ等に差を感じたことがある」と回答した人が33人、「雰囲気や慣習的なものとして、特に根拠もなく「これは女性／男性がやるべき」と割り当てられている仕事がある」と回答した人が21人となっています。

また、第3回「地域のこと」では、「自治会の役員やPTA会長になるのは男性ばかり」という声が多く上がっていました。

③ 家庭内での自身の家事等の負担について、「負担割合が多い」と回答したのが女性は約 50%、男性は約 6%であるのに対し、「家事等にあまり参加していない・できていない」と回答した女性は約 16%、男性は約 60%と、性別によって傾向が大きく異なる結果となりました。

また「偏りはない・単身である」と回答した人については、男女共に約 30% となっています（第 2 回「家庭のこと」より）。



今回、回答者の 57% が共働きであるという状況で、家事等の負担が女性に偏っているものの、その役割分担自体には「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した人が、女性約 70%、男性約 90%と、男女共に満足度は高い傾向にあります。

④ 家庭環境等に対する不満・不安・ストレスの原因として、男女共に約 30% の人が「仕事が忙しく、家事等に時間がかけられない」を選択しており、自身の家事等の負担について「家事等にあまり参加していない・できていない」と回答した 60 人中 23 人（約 38%）が、その理由として「仕事が忙しいため（本当は家事等に参加したい）」を選択しています（第 2 回「家庭のこと」より）。

また、地域活動についても、「活動には参加していない」と回答した 61 人中 51 人（約 84%）が、その理由として「仕事や家庭のことで忙しいため」を選択しています（第 3 回「地域のこと」より）。

仕事と家庭の両立等につながるセミナーやワークショップについて、どの

ようなものがあれば参加したいかという設問についても、「ワーク・ライフ・バランス全般に関するセミナー」「片づけ・掃除術等のワークショップ」「家事時短術等のワークショップ」を選択する人が多く（第 2 回「家庭のこと」より）、全体的に役割分担が偏ることよりも、忙しく時間が取れないことに対して不満・不安を抱えている人が多いという結果となりました。

3 まとめ

「男女共同参画社会」については、男女共同参画社会基本法第 2 条の中で、「男女が、社会の対等な構成員として自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。

50 《仕事》 50
50 《家庭》 50

必ずしも、男女が同じだけ仕事や家庭に参画しなければならないということではありません

お互い納得している・バランスが取れているなら OK!

70 《仕事》 30
30 《家庭》 70

仕事や家庭など、各分野に参画する機会が同じように与えられた状況で、性別ではなく個人の「好き」や「得意」を尊重した結果、役割が偏ること自体は問題ではありません

重要なのは、自分や他人の役割を性別で決めつけず、「自分らしさ」「その人らしさ」を尊重することです。

町では、今回のアンケート結果を受け、町民一人ひとりが「自分らしく」活躍できるまちづくりを推進していきます。